

オハイオ州・フィンドレー大学 奨学生レポート 4月

授業のある最後の月となった4月。イベントもいつもより多く、毎日が内容の濃い、非常に充実した日々を送りながら、ラストスパートを駆け抜けました。

ハムトラミック市内の小学校・高校訪問

4月5日に、ミシガン州デトロイトの中にあるハムトラミックという市にある小学校と高校を訪問し、文化交流を行いました。この訪問の目的は、ほぼアジア人のいない土地で学生達に日本のことを知ってもらおうということ、また私達自身がフィンドレーとは全く人種構成の異なる場所を見学し、アメリカのことをより深く知るためです。フィンドレーはほとんどが白人で、キリスト教の影響が非常に強い町です。フィンドレー大学自体も、元々キリスト教の精神のもとに建てられた大学です。

実際訪れてみると、イスラム教の生徒が多く、イエメンやバングラデシュからの移民が多いと聞きました。普段、日本に住んでいると、人種や宗教に関する話題に触れることはあまりありません。しかし、アメリカは同じ国内でも、ましてや車で2時間ほどの離れた土地でも、全く雰囲気異なる町並みや人々が存在するという事に非常に驚かされました。特に、最後に全員で写真を撮るときに、何人かの女子学生は写真には写らなかったことに、驚きました。これは宗教上の理由の様でした。

Service Ambassador(サービスアンバサダー)

このプログラムは大学で行っているボランティアの一つで、アメリカ人の学生と留学生がペアになって、地域で定期的なボランティア活動をすると共に、お互いの文化を理解しようというプログラムです。私は、マリアというアメリカ人の学生とペアになり、大学の近くにある介護付老人ホームを今学期中の毎週水曜日に訪れました。そこは、まるでホテルのような豪華な作りの建物で、食事からヘアサロンまでとても快適な老人ホームです。私達は主に、そちらの住人の方々とおしゃべりをしたり、一緒にお菓子を作ったりしました。4月はイースター(復活祭:キリスト教の行事)があったため、私はイースターについて学ぶことが出来ました。同時に、折り紙をマリアと住人の方々に教え、皆でうさぎを折りました。



お菓子作りの様子

Symposium for creativity and scholarship (シンポジウム)

4月12日に、大学でシンポジウムが行われました。これは文化祭のようなもので、学生や教授の普段の研究の成果発表をします。私は、何か自分で研究できることはないかと思い、昨年の奨学生の伊藤さんが上田知事が力を入れていらっしゃる「女性の家庭外社会進出について」の研究をしたこと、また私のルームメイトのケイトリンが「日本人女性の結婚・出産後のキャリアチョイス」について研究していたことから、4年制大学を卒業する/した「アメリカ人女性のキャリアチョイス」について、日本と比較しながらの研究をしました。アメリカ人女性といっても、調査対象はフィンドレー大学の学生や私の友達だったので、研究領域としては狭いものになりましたが、短い時間の中で、慣れない英語の論文を参考文献として読んだり、論を立て、パワーポイントを英語で作ったり、英語でのプレゼンの練習をしたことは、確実に自分の力になったと思います。当日はたくさんの方が私の発表を見に来てくださり、 Fell 学長にも来て頂いたので、非常に緊張しましたが、無事に発表することができました。

また、先ほど書いたサービスアンバサダーについてのポスタープレゼンテーションをマリアと行い、多くの方にこのプログラムを知ってもらうことが出来ました。何人かの学生は、来学期申し込んでみる、といってくれました。



発表の様子

東日本大震災記念式典

4月17日に”Reflecting on the Tsunami: Today and Tomorrow” というイベントを開催しました。昨年の東日本大震災から一年、今年留学にきている学生はほとんどが被災者であることから、自分達の経験を語ることを通して、実際の日本はどんな様子で、人々は何を感じていたのかを共有するとともに、日本のことを心配してしてくれたフィンドレーの人々に感謝の意を込めて、式典を行いました。私を含め、何人かの学生がそれぞれの地で経験したこと、また被災地でのボランティア活動の様子について発表しました。聞いている方の中には涙を流す方もおり、改めてこの震災の被害の大きさや、私達にとっての影響力について考えさせられました。

International Night

4月20日にインターナショナルナイトというイベントが開かれました。フィンドレーに
来ている留学生が中心となって、それぞれの国がブースを持ち、その文化を紹介し、
各国の食べ物を試食したり、夜には各国のパフォーマンスを見ることが出来ます。昼
間には、アメリカの小学生達がクラスの活動として訪れてくれます。私達日本のブー
スでは、ひらがなで名前を書いたネームプレートを作ったり、折り紙や日本のおもちや
で遊んだりできるブースを作りました。また、料理としては、肉じゃが・手巻き寿司・焼
き鳥を作り、パフォーマンスではダンスを踊りました。日本のポップカルチャーであるA
KB48のダンスから盆踊りまで、更にはよさこいソーラン節を披露し、大いに盛り上が
りました。

このような国際的なイベントができるというのはアメリカならではのようです。なぜ
なら、ここまで多くの国からの大学生が一つの大学に集まることは非常に貴重だから
です。そして、それぞれの国からの留学生の数も多く、改めてアメリカは世界の人々
を魅了している国だと思いました。



日本のブース



サウジアラビアのブース